

設計課題「近隣の街並みに配慮した車庫付二世帯住宅」(木造 2 階建)

1. 設計条件

・閑静な住宅地に建つ親子二世帯住宅を計画する。計画にあたっては次の ~ に留意する事。

世代間の交流を図るため 1 階食事室・台所から直接、出入りできる屋外テラスを設け、近隣の街並みに配慮し、庭園は出来るだけ緑化に勤めるものとする。

自動車車庫は、屋内で行き来できるようにする。

1 階部分は親世帯が主に利用するものとし、高齢者へ配慮した計画とするため玄関、廊下、1 階便所、浴室は手摺を設ける。

(1) 敷地

ア. 形状、道路との関係、方位等は下図の通りである。

イ. 第一種住居地域内にあり、防火・準防火地域の指定はない。

ウ. 建ぺい率の限度は 60%、容積率の限度は 200% である。

エ. 地形は平坦で、道路及び隣地との高低差はなく、地盤は良好である。

オ. 電気、都市ガス、上水道及び下水道は完備している。

(2) 構造及び階数

木造 2 階建とする。

(3) 延べ面積

170m² 以上、200m² 以下とする。

(自動車車庫は床面積に算入し、ピロティ、玄関ポーチ、駐輪スペース等は床面積に算入しない。)

(4) 家族構成

親夫婦(70 歳代)、子夫婦(40 歳代)、子供 2 人(女子大学生・男子高校生)

(5) 要求室

下記の所要室は、全て計画する。

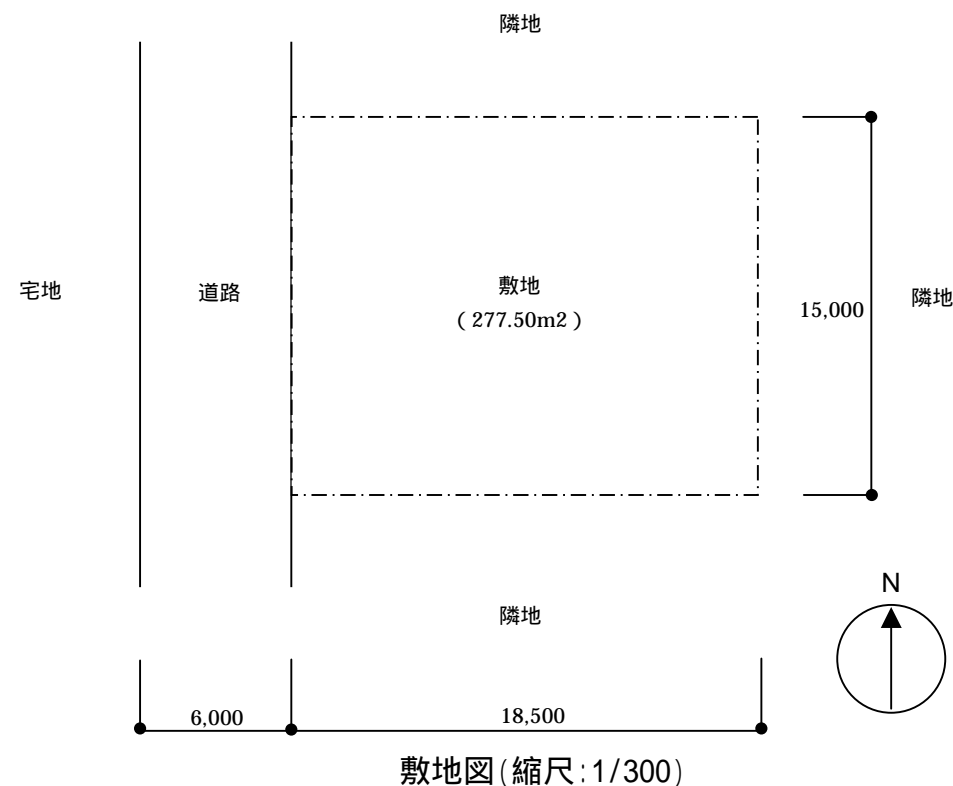
設置階	所要室	特記事項
1 階	自動車車庫	ア. 小型乗用車 1 台分とし、14m ² 以上とする。 イ. 入り口にシャッター等を設ける。 ウ. 住宅部分と屋内で行き来できるようにする。
	玄関	
	食事室・台所	ア. 洋室 23m ² 以上とする。 イ. 対面キッチンとする。
	和室(居間)	ア. 和室 8 帖とし、押入・床の間を設ける。 イ. 食事室・台所と一体とし、居間としても利用する。
	親夫婦室	・洋室 19m ² 以上とし、その他に書斎コーナーと収納を設ける。
	便所	・広さは、芯々 1,365 × 1,365mm 以上とする。
	浴室	・3m ² 以上とする。
	洗面脱衣室	・3m ² 以上とする。
	納戸	・洋室 3m ² 以上とする。 ・1 階の廊下幅は芯々で 1365mm 以上とし、手摺を設ける。
2 階	子夫婦室	・洋室 19m ² 以上とし、その他に 4.5m ² 以上のウォークインクローゼットを設ける。
	子供室(2 室)	・洋室 9m ² 以上とし、その他に収納を設ける。
	便所	・広さは適宜とする。
	洗面室	・コーナーとしてもよい。
	納戸	・洋室 4.5m ² 以上とする。

(6) 屋外施設等

ア) 自動車車庫とは別に屋外駐車スペース 1 台分を設ける。

イ) 敷地内に屋外駐輪スペース 3 台分を設ける。

ウ) 屋外テラス 23m² 以上を設ける。



2. 建築物

a. 下表により、答案用紙の定められた枠内に記入する。ただし、寸法線は枠外にはみ出して記入してもよい。

b. 図面は黒鉛筆仕上げとする。(定規を用いなくてもよい。)

c. 記入寸法の単位は、mm とする。なお、答案用紙の 1 目盛りは 4.55mm (矩計図にあっては、10mm) である。

d. シックハウス対策のための機械換気設備等は記入しなくてもよいものとする。

要求図書 ()内は縮尺	特記事項
(1) 1 階平面図兼配置図 (1/100)	ア. 敷地境界線と建築物との距離、建築物の主要な寸法を記入する。 イ. 1 階平面図兼配置図に門、塀、植栽、駐車スペース、駐輪スペース、屋外テラス等を記入する。
(2) 2 階平面図 (1/100)	ウ. 室名を記入する。 エ. 台所設備機器(流し台、調理台、ガス台、冷蔵庫等)、浴槽、洗面器、便器、洗濯機を記入する。 オ. 「通し柱」を印で囲み、「耐力壁」に印を付ける。 (注)「耐力壁」とは筋カイ等を設けた構造上有効な壁をいう。 カ. 2 階平面図に、1 階屋根伏図(平屋部分がある場合)も記入する。 キ. 矩計図の切断位置を記入する。
(3) 2 階床伏図兼 1 階小屋伏図 (1/100)	ア. 主要部材(通し柱、1 階及び 2 階の管柱、胴差、2 階床ばり、けた、小屋ばり、火打ばり、棟木、小屋束、もや)については、凡例の表示記号にしたがって記入し、断面寸法(小屋束を除く)を凡例に記入する。ただし、主要部材のうち平角材又は丸太材としたものについては、その断面寸法を図面上に記入する。 なお、根太及びたる木については、記入しなくてもよい。 イ. その他必要に応じて用いた表示記号は、凡例欄に記入する。 ウ. 建築物の主要な寸法を記入する。
(4) 立面図 (1/100)	・西側立面図とする。
(5) 矩計図 (1/20)	ア. 切断位置は、1・2 階の開口部を含む部分とする。 イ. 作図の範囲は柱芯から 1,000mm 以上とする。 ウ. 矩計図として支障のない程度であれば、水平方向及び垂直方向の作図上の省略は、行ってよいものとする。 エ. 主要部の寸法等(床高、天井高、階高、軒高、軒の出、ひさしの出、開口部の内法、屋根の勾配)を記入する。 オ. 主要部材(基礎、土台、柱、大引き、1 階根太、胴差、2 階床ばり、2 階根太、けた、小屋ばり、もや、たるき)の名称・断面寸法を記入する。 カ. 床下換気口の位置・名称を記入する。 キ. 外気に接している次の部分の断熱措置を記入する。 ・屋根(小屋裏が外気に通じている場合は、屋根の直下の天井) ・外壁 ・1 階床 ・その他必要と思われる部分 ク. 室名及び内外の主要な部分(屋根、外壁、床、内壁、天井)の仕上げ材料名を記入する。
(5) 面積表	ア. 建築面積、床面積及び延べ面積を答案用紙の面積表に記入する。 イ. 建築面積及び床面積については、計算式も記入する。 ウ. 数値は小数点以下第 2 位までとし、第 3 位以下は切り捨てる。

	通し柱	1 階管柱	2 階管柱	1・2 階が重なる管柱	火打ちばり
表示記号					
断面寸法の記入欄					
	胴差・2 階床ばり・けた・小屋ばり			棟木・小屋束	もや・小屋束
表示記号					
断面寸法の記入欄					

3. その他

次の試験については、上記のほか、下記による。

北海道の試験

(1) 設計条件

北海道の気象条件に合うような防寒構造とする。

(2) 要求図書の特記事項

ア. 平面図に、暖房設備の方式又は機器を記入する。

イ. 矩計図に 想定した凍結深度 基礎の凍上防止措置 壁、天井、床等の断熱、防湿等の防寒措置を記入する。

図面には必ず、住所・氏名・メールアドレスを記載すること。

添削締切 9 月 12 日消印有効です。

試験日が迫ってきましたので、できるだけ速達をお願いします。

2 号封筒程度でお送りください。